

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171200627		
法人名	株式会社あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム三郷		
所在地	埼玉県三郷市新和4-545-2		
自己評価作成日	令和 4年 1月 19日	評価結果市町村受理日	令和 4年 4月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 4年 3月 10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・看護師が常勤で勤務している点、また併設のデイサービスにも看護師が勤務している点を活かし、医療依存度の高い利用者様の入居の受け入れや、受診時や往診時の対応、また適宜ご家族に利用者様の体調変化やご様子を報告し、また体調変化時には早期に対応するよう心がけ、日頃から利用者様やご家族が安心して過ごしていただけるよう支援している。  
 ・利用者様がコロナ禍でなかなか外出できない状況であるなか、少しでも笑顔で毎日楽しく笑って過ごしていただくよう職員一同心がけるとともに、あすなろホームの特徴である「あすなろの板前さん」のケータリングや調理レクを活用し、利用者様の食事の楽しみの支援や調理や片付けに参加していただき、役割や生きがいを感じていただくよう支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は、法人理念の他、年度の目標として「目配り・気配り・心配り」を、事務室とキッチンを目につく場所に掲げている。また、今年のテーマとして“笑う”を取り上げている。コロナ禍のため、様々制限のある日々に、利用者も職員も笑って過ごそうとの思いが、利用者にとって安心にも繋がっている。併設の地域密着型デイサービス施設と共用デイサービスをおこなっていることから、利用者間の交流が広がり、将棋を共にし、挨拶を交わすことも多くなっている。災害訓練や緊急時対応でも職員間の協力があるのも安全に繋がっている。空室待ちの人からも食事が楽しみと言われる程の食事は、「あすなろの板前さん」が月に一度来て、寿司やウナギ、天婦羅を目の前で調理してくれるし、利用者も家庭の延長でキッチンに立てるのを嬉しく思っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすなろホームの理念や今年の目標について目につくところに掲示し、全体会議や朝礼等で適宜職員に周知している。また入職時のオリエンテーションの中で理念について説明している。	事業所理念を事務室の他、キッチンを目につくところに掲示している。利用者本位と自立支援、安全管理は周知されており、職員のペースになりがちな点を注意し合っている。挨拶と、顔を見て話すよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域の幼稚園児との交流等が現在は難しいが、ご近所的美容院と連携したり、回覧板を回す時に利用者様と一緒にいき、庭木について会話を楽しむ機会を設ける等工夫している。	コロナ禍のため地域交流には制限を設けている。出来ることとして、学生の職場体験を受けており、初任者研修の一環としている。自治会回覧板から情報は得ており、民生委員とは情報交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議を通し、民生委員さんに回覧板で広報誌を回していただいていたが、現在は中止となっている。また民生委員に働きかけていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は三郷市の意向で運営推進会議は中止となり、紙面での施設の状況報告となっている。ご意見はいつでもいただけるよう協力をお願いしている。	行政と相談し書面開催であり、議事録を市役所、民生委員、地域包括支援センター、家族代表者へ送付している。内容は、PCR検査やワクチン接種状況の他、運営概況報告等で、意見や希望を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 令和 4年 3月 10日	運営推進会議の相談も含め、市の担当者とは密に連絡をとるように心がけている。市の担当者からは書類等は郵送で可と言われていたが、なるべく伺うようにしている。	担当者とは、4月以降の運営推進会議についても相談した。基本は、メールや手紙での情報交換となっている。グループホーム・小規模多機能協議会での研修会では、レビー小体型認知症について学んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については安全面から、玄関と各フロア入り口は施錠している。介護の方法を職員同士で話し合い、ベッドの4点柵など抑制はせず、センサーを使用し、見守りを密にしている。ご家族にはセンサーが鳴っても転倒の可能性があることは説明している。	本部研修会に研修委員が参加し、事例を踏まえての拘束や虐待を話し合っており、内部研修で周知している。身体拘束廃止委員会では2ヶ月毎に主任会議内で行い、疑いが無いかを話し合っている。内出血報告書を用い、確認できる体制を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上身体抑制と虐待防止についての研修を実施している。また職員の言葉遣いや口調、話す内容に注意し、入浴時など身体チェックを行い、内出血の有無や小さな変化も見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に成年後見人がついている利用者様もいるが、入居後に成年後見人制度開始のお手伝いや、補助人から後見人への類型変更について包括、主治医と連携し行っている最中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧にわかりやすく説明するとともに、説明の後に不安や疑問点がないかを確認し、帰ってから何か気になることがあった場合はいつでも連絡して良いことをお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社からの指示で定期的に利用者様のご家族にアンケートを実施し、結果やご意見、改善点をご家族様にお知らせするとともに、掲示するようにしている。	アンケートでは、食事の内容を知りたい希望を受け、請求書を送る際にメニューを同封するようにした。また、面会時に意見を聞いているが、一緒に食事がしたいとの意見があり、コロナ禍での対応を説明した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、職員に声をかけるようにし、不安や不満、ストレス、心配なこと等ないか確認するようにしている。職員の日頃の表情や言動にも注意をするようにしている。	朝の申し送りでは、職員間のコミュニケーションを取るようにし、様々意見を聞いている。個別面談も実施しており、職場環境について話すこともある。新しくできた中庭の利用を有効に使う提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の時だけでなく、できる限り社長、部長に連絡し、日頃の職員の頑張りを伝えるようにしている。現在、2ヶ月に1度、スポットライトという頑張っている職員を表彰する取り組みをおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あすなろグループ法人の研修だけでなく、適宜、外部のオンライン研修の機会を作っている。またOJTや全体会議で必ず研修を行なうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や事例発表会、委員会活動において他の施設とオンラインだが情報交換できている。また法人内で応援体制や研修制度もあり、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との会話の中で要望等を受け取り、適切に対処し、信頼されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を受け取り、適切に対処し、信頼されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族が優先して必要とする支援を見極めて対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が介護する側、される側に分けるのではなく、グループホームで生活する仲間であるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、利用者様を共に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍で外出や友人との面会がなかなかできないが、終焉後は外出や面会により、馴染みの人や場所との関係継続に努めていきたい。	海外旅行を一緒にした友人の来訪や、地域密着型デイサービス、共用型デイサービス利用者で顔馴染みの人と将棋をしたり会話が弾むことはある。近隣美容院へ行っていた人のもとへ、美容師さんが来てくれ、家族は喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションに参加されない利用者様に声かけを行い参加を促し孤立しないよう努める。利用者様が長時間一人にいる場合、フロアに来ていただき、他の利用者様との関わりを増やすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後必要になった時、相談や支援ができるような関係作りに努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のこれまでの環境、築きあげてきたものを尊重するとともに、一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。	日々の何気ない会話から知ることもあり、入浴時に一緒に歌を唄いながら話されること等、職員間で共有し申し送りノートに記載もする。難しい人は、表情や短い言葉で察知し、行動で返すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、生活環境の情報を読み、利用者様のお話し等をよく聞き、利用者様それぞれの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの現状の思いや満足度、期待度を知り、何かできることを探すよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ご本人、ご家族に今後の生活について話を聴いたり、職員間で話し合いをして介護計画を常に見直している。	見直しは利用者の状況に合わせ、3ヶ月か6ヶ月としている。居室担当者を含めフロア職員から意見を聞き作成しており、コロナ禍の為、家族の意見は充分ではないが、内容説明のうえ、署名捺印を貰っている。	利用者とは介護プランの話し合いは出来ているが、家族の意見を得にくい状況にある。ウィズコロナを想定しながらもコミュニケーションの取り方に一考を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録は詳細に記入し、問題がある時はそのままにせず話し合い、介護計画を見直すよう実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族が望んでいることを考え、一人ひとりに寄り添ったサービス支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の行事や音楽療法、誕生会などを行い、暮らしを支援している。現在はボランティアなどの受け入れは行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医に受診を続けるか往診に切り替えるかは、ご本人やご家族と相談し決めてもらっている。また往診も1ヶ所だけでなく、入居前の医療を継続できるよう柔軟に対応している。	従前からのかかりつけ医を選択する人もあり、現況3か所からの往診医にお願いしている。夜間は、管理者への連絡を受け、医師との連絡を取って指示を仰いでいる。歯科医は状況により往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調不良時やいつもと様子が違うと思った時は、すみやかに看護師に報告、相談し早期発見に努め、適切な受診、往診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、利用者様、ご家族の不安に寄り添うとともに、施設でのご様子や経過等サマリーだけでなく、口頭でも伝えるよう支援している。また可能な範囲で面会や退院カンファに参加、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の体調の変化や利用者様やご家族の気持ちをくみ取りながら、タイミングを見てご家族と相談するようにしている。主治医とともに施設の看取りの指針等十分に説明し、ご家族が納得できるよう取り組んでいる。	契約時に方針を伝えており、重篤な状態となれば医師と家族、管理者とで話し合っている。看取り同意書を交わしており、都度の方針変更にも対応している。看取りの経験もあり、看取り同意となれば、何度かに分けて全社員への研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時のマニュアルは作成している。急変時など不安な時はいつでも看護師に連絡して良いことを職員に話している。AEDや心肺蘇生について訓練する計画をたてているが実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で消防や近隣の方の立ち会いは無いが、消防訓練を年2回は実施し、日中と夜間想定した消防訓練と洪水が発生した場合に備えての避難訓練も行っている。	夜間想定も含め年2回の自主訓練をしている。消防署とは連絡し合い、水消火器を借りている。水害対策として、上階避難と近くの特別養護老人ホーム間での協定がある。各居室に備蓄品を置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に不快な思いをさせない言葉遣いをし、利用者様からの質問等も後回しにせずすぐ答え対応するようにしている。	個人情報施錠管理されており、プライバシーマニュアルを見やすい場所に置いている。全体会議では、尊厳と接遇マナーを確認しており、排泄時や入浴時での声掛けや羞恥心配慮を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は押しつけないでアドバイスをしない、利用者様が自身で考えて決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション等声かけした時に「気分が乗らない」「参加しない」と言われたら無理強いをせず利用者様が今やりたいことを優先させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際に着替える服を選んでいただいたり、自力で着替えられない利用者様も同じ服にならないように着替えをさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりあった食事形態で提供している。後片付けも役割分担し、積極的にお手伝いしていただいている。月に一度ケータリングを楽しみにされているが、調理レクも沢山取り入れている。	調理レクリエーションでは利用者と職員が楽しみながら好みのメニューに挑戦している。また、あすなる板前さんが月に一度来訪し、にぎり寿司や天婦羅を目の前で実演してくれ、利用者には楽しみの日である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、おやつ、水分量の摂取状況を確認し、記録している。食事量が少ない方は栄養補助飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっていただくよう声かけしている。自力でケアを行えない利用者様には、職員が丁寧にお手伝いさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前や食後不快の無いようにトイレ誘導し、一人ひとりの排泄時間帯を見極めて、なるべくトイレでの排泄を促し不快にならないようにしている。	排泄チェック表からリズムを掴んでおり、食前の声掛け等で、日中のオムツ使用者はなく、オムツ外しに向けている。退院時はオムツでも、自立心を支えながらトイレ見守りとし、2～3日でオムツが外れた人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事水分や負担にならない程度の運動、歩行を促している。特に水分は多めに摂っていただくよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や時間帯に応じて、利用者様本人が快適な入浴ができるように入浴剤を入れたり、季節のものを取り入れ楽しんでいただけるように工夫している。	週2回の午前浴としているが、血圧が高い人へは午後浴とし、状況に合わせている。共用サービス利用者も含め日に4～5名の入浴である。嫌いな人も、声掛けで上着を抜けばスムーズで、良い表情になる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼臥床やいつでも休めるようにベッド周りの整理や室温をこまめに調整し、加湿などにも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセットは看護師がしているが、内服時はダブルチェックで日付、時間帯、名前の確認をし間違いのないように努めている。内服薬の情報は利用者の情報シートに記入、共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味嗜好、個々に合ったレクリエーションや体操、気分転換に中庭に出かけたり楽しみながら支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、移動スーパーで買い物、初詣は行なっているが、コロナ禍のため、夏祭りの参加など地域の方との連携、ご家族との外出ができていない状況である。	コロナ禍のため近場への外出支援となっている。初詣では人の少ない神社を選んだり、近場の土手へ散歩に出かけ季節の花を楽しんでいる。中庭での日向ぼっこは憩いの場でもあり、月1回来訪の移動スーパーを楽しまれる人は多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機で購入する飲み物代の小銭は利用者様が自身で管理していただき、ご本人希望の物は、ご家族に買ってきていただくか、施設で立替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望される時は施設の電話で通話していただいている。年賀状や季節の行事などの便りは、ご本人の写真とともに利用者様に直筆で書いていただき郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下など皆さんで利用される場所には季節の飾り物などを入居者様と一緒に制作した飾り付けをしている。居室などのエアコンの温度管理は職員が行なっている。	長い廊下を歩行練習に使う人は、共同作品の桜と菜の花貼り絵やイベント写真を見ながら会話も弾んでいる。定期的に玄関に生け花を活ける利用者もあり、温かみのある空間となっている。現在は、換気にも配慮し二酸化炭素計測器も設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し離れた所にある三角コーナーにリクライニングチェアを置き、日光浴をしながら談話ができる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と一緒に写った写真を飾られたり、使い慣れた物や思い出のある物をご家族に持ってきていただき、居心地良く過ごしていただけるよう努めている。	ベッドとエアコン、カーテン、洗面台が備えてあり、使い慣れた家財等を持込んでいる。廊下の装飾品からお気に入りの作品を飾る人もあり、思い出写真や絵画、置物等で居心地の良さを作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には分かりやすく貼り紙をし、矢印などでもご案内を示し、居室にも名前を書いた紙を貼り、利用者様同士が安心して生活できるようにしている。		